

# News Letter

特集 2～7頁

## 「生き物と共生する地域づくり」をめざして

寄稿 「信濃川 その下流域では」 (財)新潟県環境衛生研究所・大谷道生氏

寄稿 「一之江境川親水公園物語」(財)江戸川区環境促進事業団・鈴木弘行氏

...他

**寄**

生バチは他の昆虫に卵を産み付け、幼虫がそれを食べて育ちます。ハチ目の大多数は、このような寄生バチであるヒメバチやコバチで構成されています。しかも、寄主あたりの寄生バチの種数を考慮すると、寄生バチはそれ以外の昆虫の全種数と同じ程度存在するだろうという研究者もいます。このように寄生バチは大所帯ですが、そのほとんどは陸上昆虫を寄主としており、水生昆虫に寄生するものはごく少数です。その中でトビケラの蛹に寄生するミズバチ類はいわば変わり者といえます。

ミズバチ類はヒメバチ科に含まれており、2属13種が東アジアに集中して分布しています。日本にはニン



ミズバチに寄生されたニンギョウトビケラの筒巢(上)。  
前方から伸びているのはミズバチのマユの一部(下)。

## 潜水蜂

ギョウトビケラ *Goera japonica* に寄生するミズバチ *Agriotypus gracilis* とアツバエグリトビケラ数種 *Neophylax* spp. に寄生するミヤマミズバチ *A. silvestris* の2種が生息しています。中国の論文ではミズバチを「潜水蜂」と書いていますが、文字通り、このハチは寄主のトビケラの蛹を求めて水に潜っていきます。トビケラの幼虫は蛹になる時に溪流中の石の表面に自分の筒巢をくっつけます。そして、ミズバチの雌成虫はトビケラの蛹を探すために石づたいに歩いて水中に入ります。歩くだけで決して泳ぎません。「泳がない」と言うよりはむしろ「泳げない」と言った方が正解です。水中で歩いてい



ミズバチの雌成虫。体長約7mm。

る途中で何らかの拍子に石から離れてしまうと、もがきながら水面まで浮き上がってしまいます。カナヅチながらも水中に入っていきこの連中はええ根性してます。ただし、雄成虫は水中に入ることはありません。水辺で雌と交尾するぐらいです。某検察函説には水中での活動時間は10～15分となっていますが、実際観察していると30分以上はざらで、3時間を超えることもありました。潜っている時には、体が気泡で包まれています。こんなわずかな空気でも活動に十分な酸素を供給できるでしょう。

ミズバチは稀な昆虫ではありません。しかし、大阪府内ではミズバチの生息地のうち、2つの川にダムが建設されようとしています。このような目立たない昆虫は、人知れず生息地が失われているのかもしれない。

(大阪支社自然環境調査室・青柳)